

C-49 袖山のいせこみに関する研究 最大いせこみ量について

東京学芸大 石毛フミ子 ○鳴海多恵子 文教大家政 松田歌子

学習院女短大 増田よし子

目的 本実験では、袖山における縫製技術をより簡単に、かつ確実にするために、いせこみについて研究を行い、袖付け作業の能率化を図ることを目的とし、実験、考察を行った。

実験方法 実験材料は、毛、綿の平織を用い、各材料から、たて、よこ、斜方向に、長さ 15 cm、幅 10 cm の試料布を 5 枚ずつ裁断し、いせこみ試長は 10 cm とした。縫代は 1 cm とし、いせこみのためのぐし縫いは、ミシンを使い、織糸が 1～3 本入いる程度の細かい針目で縫い、下糸を引いていせこみを入れた。

結果 いせこみは、ぐし縫いによつて、織糸空隙を縮めたものであるところから、いせこみ量は空隙量に関係が深いと考えた。1 cm 当たりの織糸空隙量は、

$\left\{ 1 \text{ cm} - \text{糸密度} \left(\frac{\text{本}}{\text{cm}} \right) \times \text{織糸直径} (\text{cm}) \right\}$ で表わされ、それよりぐし縫い糸の太さ分を除いた量が計算上のいせこみの最大限度と考えられる。試料布による実験のいせこみ量と、計算上の織糸空隙量とを比較すると、空隙量が多くなるほど相関が高くなることが確かめられた。今後は袖山のいせこみ分量に、これを応用し、検討を試みたいと考える。